

生産性向上・補助金活用の事例

製造業	【最新機器への更新】 製造ライン上で、老朽化している設備を最新の機種に更新する。 これまでは、全行程に3時間程度を要していたため、所要時間が全体のボトルネックになっていたが、 <u>最新機種を導入することにより同工程が1時間程度で完了するようになり、ライン全体の生産性が向上する。</u>
卸売業	【手作業の機械化】 これまで製品の梱包・顧客への発送を全て手作業で行っていたが、人手不足の問題もあり、社員負担や納期遅れの原因となっていた。 <u>自動梱包機を導入し、作業の効率化と社員の作業負担軽減を図る。</u>
小売業	【作業時間・ロスの削減】 現在保有している冷蔵庫では、取り扱う商材の保存は2日間が限度で、高頻度で発注作業が生じているだけでなく、廃棄ロスも多い状態。 <u>大容量の保存ができる業務用高湿冷蔵庫を導入し、作業時間の削減と歩留まり改善を図る。</u>
飲食サービス業	【エラーの削減】 ホールスタッフが注文を聞き厨房に伝える業務や、レジ作業でエラーが頻発しており、人手不足もあって代表者が現場作業に追われる状況。 <u>キャッシュレス決済・自動キッチンオーダー機能付きの券売機を設置し、ヒューマンエラー削減による業務効率改善をめざす。</u>
専門・技術サービス業	【新たな顧客の獲得】 従来のソフトでは、大手顧客が求める高度な案件を受注できず機会損失となっていた。 <u>最新機能のソフトウェア及びシステム機器を導入し、対応できなかった案件の獲得によって大きな売上の向上が期待できる。</u>
生活関連サービス業	【付加価値による客単価向上】 現在の事業所スペース・従業員数では、対応できる顧客数に限りがあり、限られたリソースの中でさらなる売上を向上させるために、サービスの付加価値を高めたい。 <u>最先端の機能を有し、他店との差別化を図ることができる高機能マシンを導入し、高単価の新メニューを提供することで、売上の向上をめざす。</u>
建設業	【内製化による業務効率向上】 現場対応の際に高頻度で必要となる機器があるが、案件の都度レンタルで対応しており、日程調整や発注作業などに手が取られている。 <u>当該機器を購入して自社で保有し、業務の効率化を図る。</u>

※下線部が補助金の対象経費です。

申請前にご相談ください

これは一例です。まずはメールでエントリーシートを提出してください。

E-Mail : boostup-keizai@city.suita.osaka.jp